



ŌMIYA NEWS



No.012

2024年8月3日

JR 東労組大宮地本

大地申
第2号

「JR東労組大宮地本第25回定期大会」 の発言に基づく申し入れ(その2)を提出!

JR東労組大宮地本は、2024年7月13日「さいたま市文化センター」において第25回定期大会を開催し、組合員と共につくりだした職場活動を基礎として、この間の運動の成果と課題を明確にし、定期大会方針を参加者全員で確認しました。

大会の中では、24春闘・夏季手当のたたかいを振り返り、会社の「過去最高のベースアップ」とした回答も「過去最大の格差が生じたベースアップ」「夏季手当低額回答」に怒りの声が上がっています。一方「変革2027」の実現に向けて、組織の再編が行われ「活躍フィールドの拡大」を目指していく事を目的に施策が推し進められ、働き方も大きく変わり一人の働き度も大きく上がっています。新入社員的大幅な減少により各系統でも要員不足が顕著に現れ、安全で安心してご利用いただける鉄道を提供出来るのかという危機感も出ています。また大宮支社管内でこの間進めてきた「みどりの窓口の閉鎖と営業時間に縮小」に伴い、日常的に徒列が発生し不慣れな系統の社員が案内するなど、お客さまサービスの質が問われています。車両・検修職場では首都圏本部になり異動の頻度が増えたことによる技術継承への懸念が出ています。大宮総合車両センターでは本人のキャリアプランを無視し、「キャリアパスの一環」とし支社外となる三鷹車両センターへの異動が発生するなど簡易苦情処理申請が出される事態となっています。工務職場では事後対応による緊急点検の実態なども明らかになっています。改めてこういった現実を受けて、労働組合として「鉄道の安全とお客さまサービス」に対し徹底して向き合う事を全体で意思統一を行っています。宇都宮運輸区における長期にわたる懲罰的日勤教育とパワーハラスメント・恫喝の事象を受けた組合員本人は、復職はおろか日常生活まで支障が出ています。大宮地本は今後も、原因究明委員会を開催し、責任追及を許さず、安全哲学の再構築と鉄道の安全を守り抜くため職場での議論をつくりだしていきます。

このように矢継ぎ早に打ち出される施策に向き合いながらも安全・安定輸送やお客さまサービスの実現に向け奮闘している最中でも、さいたま運転区では不当労働行為を面談で行い、他方団体交渉で指摘している副長が反省する姿勢も見せず繰り返し行っている不当労働行為の現状も明らかになっており、到底許される事象ではなく徹底した対策と原因究明が不可欠です。

厳しい経営環境や要員需給が逼迫する中でも、職場で奮闘する組合員・社員の悲痛な声を受け止め、「安全・健康・ゆとり」を一人ひとりが実感できる職場の実現に向けて、下記の通り申し入れを行いました。交渉日程が決まり次第、お知らせします。

申し入れ項目

1. 大宮支社エリアから旧東京支社・八王子支社エリアに異動した組合員が連続で簡易苦情処理申請を行う状況になっていることから会社の認識を示すこと。また大宮総合車両センターから三鷹車両センターに異動の際、コピー機に簡易苦情処理票を置き忘れたり、本人希望に沿わない異動であったにも関わらず科長にコミュニケーションを求めると「仕事に戻れ」と話をせず一方的な異動になっていることから、車両関係社員のキャリアパスもジョブローテーションに踏まえ、自ら描くキャリアの実現に向け労使の確認事項を遵守すること。
2. 大宮総合車両センターにおいて、来年1月に退職を迎える組合員に対し示された条件が合わず断ったことで「次示すところはない」「断るなら制度を利用しない用紙にサインしてほしい」など現場長をはじめ管理者4人と面談を受ける中で言われていることから、エルダー制度の趣旨に踏まえこれまで培って来た経験を活かし、組合員が持つノウハウを活かせるよう本人希望を踏まえ対応すること。
3. E131系において乗務員座席の不具合により乗務員が怪我をする2件の労働災害の発生や霜取りパンダグラフを使用により制限がかかるなど課題があることから設計における首都圏本部の考えを明らかにすること。また、過度なコスト削減は行わず、現場が安心してメンテナンスできる体制を整えること。
4. 各職場において鳩の糞害により、職場での清掃だけでは取り除けず苦慮している。鳩糞に含まれる病原菌や寄生虫、カビが病原菌の媒介となり健康にも被害を及ぼす恐れがあることから、組合員・社員の健康被害防止のため早急に対策を講じること。

会社は現場の悲痛な声を受け止め、改善するべきだ!

信義誠実な団体交渉で職場問題の解消を目指します!!